

中世の南奥羽を見る

—南北朝・室町時代の須賀川—

今から約600年前から700年前のころの南北朝・室町時代、宇津峰は、南朝の重要な拠点として後醍醐天皇の孫（守永親王）が居城し、稲田地区にあった稲村御所は、奥羽支配のため足利将軍家の子孫が下向するなど、須賀川は東北地方の一大拠点となっていました。

今回の講演会では、なぜこの地にこれらの拠点が置かれたのか、須賀川の歴史・文化の特性を交えながらわかりやすくお話いただきます。



宇津峰



稲村御所館跡

日時 平成31年

3月21日(木・祝)

午後2時～午後3時30分

(開場:午後1時30分)

講師 伊藤 喜良 先生

(福島大学名誉教授・須賀川市歴史文化基本構想策定委員会委員長)

【講師プロフィール】

博士(文学)。福島県文化財保護審議会会長。
日本中世史、特に南北朝・室町時代を主な研究テーマとし、『南北朝の動乱』など関連書籍を多数執筆。

会場 須賀川市民交流センター tette「たいまつホール」

定員 100名 ※定員になり次第締め切ります。

参加費 無料

申込方法 希望者は文化振興課まで電話又は直接申込
※3月11日(月)から申込を開始します。

駐車台数に限りがありますので、予めご了承ください。
また、市役所駐車場もご利用できます。

